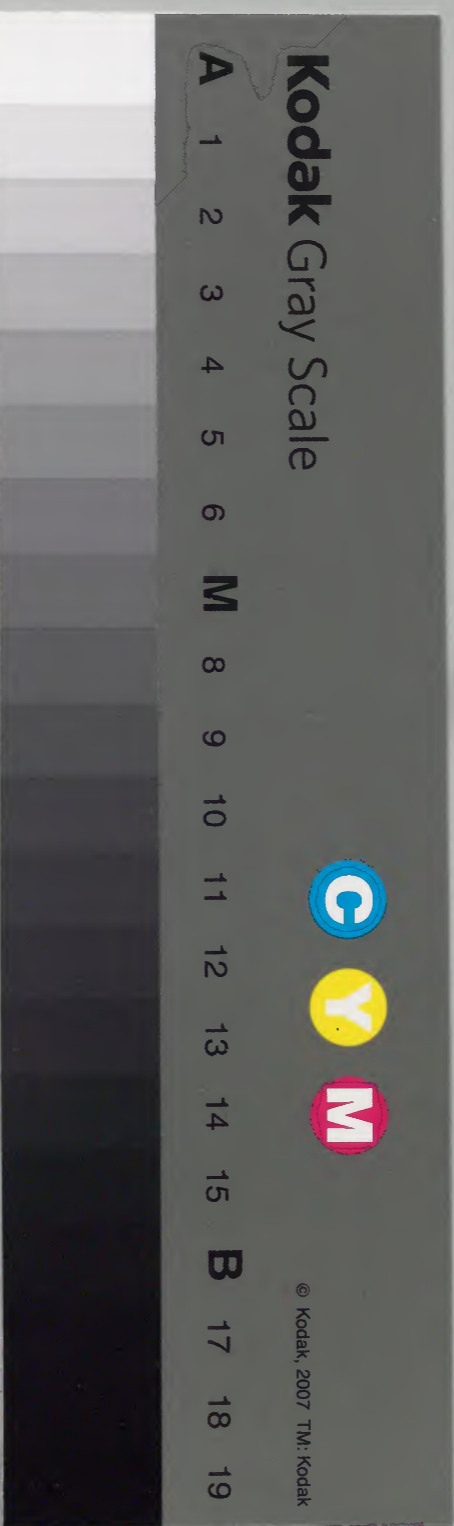


文久紀事

三

内閣文庫	
番號	和 15872
冊數	24 (3)
函號	151 9

内閣文庫			
五	二	五	和
一	四	八	書
函	冊	七	
三	架	二	類
架	冊	號	



爻異卜之象

今年正月元日 春日社第四社神鏡落損

同年三月四日 同社第三社神鏡落

右兩條謹撰神筮遇天水訟不變卦夫以訟之卦象

考之上卦之乾為下卦之坎為陷為降是則神鏡降

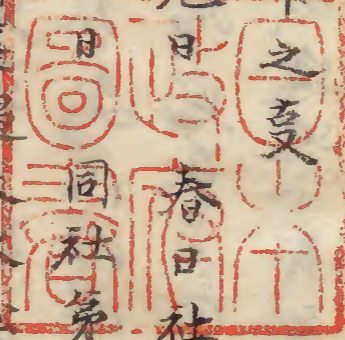
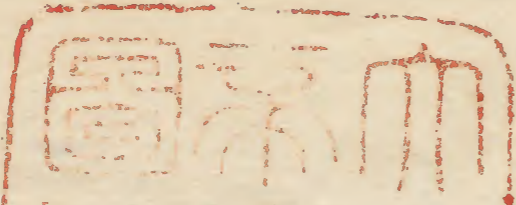
落之象乎易曰天水違行訟訟違忤也筆辨

也蓋乾外坎降天西行坎東行又上剛健以制其下

下儉則以忤其上皆背戾之象上下唯在警戒可然

以不變卦再考之不變異也是終無事之象乎

右就卦象雖之神明幽玄之事不可測吉凶豈敢輕



同類多端非方今非常之變何時生之難年形
勢有至極之薩州と力と合て之を治靜之事は又
此所由なる事

一 同五月廿中山大納言殿に長州家東浦親貞より
石内傳に於ての書付

一 國志に及りて後悦之事

一 父朝臣深志に及りて事

右に長井雅樂より止大悟より我夷跋扈沙汰成迄
巡り及りて嘆息外屬幕府に政事と云獲判禁、有
る事、及りて抱怨、月を鏡に以て、官威、内呂、月

雖も夏居居、居りて中、先年東遷、執、倉、田
安大納言上系御尋て、一月旋て及りて事、年、年、年、年、改
寫、系、御、委任、方、況、幕府、親、目、存、意、と、以、料、
砂、方、立、折、角、思、及、成、疑、也、修、出、最、叙、意、
、御、旨、徹、應、不、致、の、事、以、知、台、公、武、に、御、旨、
、御、旨、由、系、致、及、以、信、何、事、も、形、給、以、修、出、
、法、方、目、志、入、自、體、一、致、何、事、も、形、給、以、修、出、
、人、事、不、雅、樂、殿、殿、意、に、及、向、及、以、修、出、
、後、月、旋、て、致、の、事、
、建、立、の、事、未、徹、應、御、職、意、思、百、事、

系終る只々一環事一付之記一入一覽

七月廿日秋高般川第廿名屋敷に菊命と云ふ死骸
を以て密偵し首を以てに曉す一に成教を以て招接
深自白未解云つる事有らん本屋敷に菊命命三不載
を同サ可換便云々之を何分詳と云々而肺衣類等何
者より事共初より一而云々延掛云々以て時多柄
て真氣場云々菊信入本屋敷小法二降通り吾等
より降云宗に如く此後埋り詮矣云々取云々内本屋
敷家来者四名持付大尉云々以て以て説方云々有
九條殿云々此何名在松尾菊家佛云々有云々云々

目し進一云々一取云々右死骸を兄弟云々名控内
兄弟の云々一在兄云々云々一云々之に難云々事
之云々一云々 以て云々大持便り詮矣云々同日持便
仙舟云々吾等寺云々未後埋り云々中云々云々
右持便云々先云々名云々九條家に入込家来云々成此度
和宮様宮内少輔斗略云々云々云々
和宮様少輔云々幕末に中向云々持付大尉云々一曰名九
道云々一人云々以て云々云々 五十名 中云々云々當時
之持云々九條殿云々持付云々云々一人云々先云々云々持付云々
人云々云々一云々云々持付云々云々云々

柳子之院宮

自今涉免永誓居吉蓮院以臨居系

四月晦日

戊子八月十日町所奉竹於慈川伍中
多振出後毛八指老以上
之老出所云下云 仰後古宮

中波

新平屋所

定次郎

此度也格之改年云 仰出之深中
外或子之人
仰之如核年之儀樂方之 幸在為三年中

仰德化之及之振之 仰欲言發是然之 極光之老在
若吾同若某

御仁惠在波山名も有之 仰之及且書之 仰也
風俗之厚く之極也 仰一之及之有之 青此度也 仰原
大坂之臨聖園多之支配而并 仰出之官也 仰之
治民八十也以上之老之儀 仰之 仰出之古也 仰也
町人 仰之 仰之 仰之 仰之 仰之 仰之 仰之 仰之
者 仰之 仰之 仰之 仰之 仰之 仰之 仰之 仰之
之 仰之 仰之 仰之 仰之 仰之 仰之 仰之
老也 仰之 仰之 仰之 仰之 仰之 仰之 仰之 仰之

有石心約銘之五祀限之木廣積南人其得之於石
頂戴乃致所不處不出

右通云修後難有年長居後仍多件

戊午八月十一日

右通云修後難有年長居後仍多件

戊午八月十一日

一舍牙九節麻屋後田格云思石再書子石籍而甚云

作田石少砂砂水戶殿分使云云云云

右於遊過之阿福周陽也

一海之竟

酒井若狹守

思石有之石有先年云云云云

魂居云作外也

酒井修理五吏

養父若狹守儀 思石有之石有先年云云云云

其方石云石上隱居云 修外少分有富智其方石

檢石三子云石云石余云云云 帝繼之阿房云

作外云云

右於板倉因陽書出修完五年到產回今修之六日付

松平對馬守自付石久保檢若狹守云云

戊辰六月十五日御忌書院

出御 上意 題左 道

先般ノ閣下色合要年 物々々 未和文勢ノ後
其改更ノ或柄左實ノ此ノハ 爲花 委細ノ後
年易ノ人ノ下及 遠候ノ 形勢 易方ノハ 云云
得ノ下ノ 少

右御直ニ 作由

方今ノ内國ニ 形勢 毅一 變ノ有 外部ノ 交易ノ
形勢 兎ニ 形勢 兎ニ 外部ノ 交易ノ 一 變ノ有
あり之ニ 題左 是節ノ 形勢 兎ニ 外部ノ 交易ノ 一 變ノ有

撤會を去し天下ノ人心居合互終ニ 形勢 兎ニ 外部ノ 交易ノ 一 變ノ有

及切迫ニ 形勢 兎ニ 外部ノ 交易ノ 一 變ノ有

御痛心ニ 形勢 兎ニ 外部ノ 交易ノ 一 變ノ有

御國威ノ 形勢 兎ニ 外部ノ 交易ノ 一 變ノ有

御玉海軍ノ 形勢 兎ニ 外部ノ 交易ノ 一 變ノ有

此致ニ 形勢 兎ニ 外部ノ 交易ノ 一 變ノ有

年刻在府ノ 形勢 兎ニ 外部ノ 交易ノ 一 變ノ有

御心 形勢 兎ニ 外部ノ 交易ノ 一 變ノ有

持身ノ 形勢 兎ニ 外部ノ 交易ノ 一 變ノ有

極上幸向正殿總功之慶日殿於柳川殿乃納
之儀之有子誠也唐殿一條殿西園之殿之也
以唐之有子誠也唐殿一條殿西園之殿之也
之誠也仕之外有唐之誠也唐殿一條殿西園之殿之也
之有誠也唐殿一條殿西園之殿之也

杉平云信也

戊七月十日

一學事皆上之誠也唐殿一條殿西園之殿之也

之誠也唐殿一條殿西園之殿之也
之誠也唐殿一條殿西園之殿之也
之誠也唐殿一條殿西園之殿之也
之誠也唐殿一條殿西園之殿之也

七月十日

時修田在唐殿一條殿西園之殿之也
不謂好曲之巧之也之可容大好誠也依之加
殊誠之也唐殿一條殿西園之殿之也

文久三年戊七月

亦下の船首あり、死骸言ぬ川三条若花丸
船首より裏辺の川中より船身を控へて、船
首の中より或る所より刀痕をよみ、首に毒を
付を誰かよみ、水田より切替り、風吹候
船中より船中系河系言右より船首に或る
あり、

水田より候

年三十三歳、親は長尾山候

和宮権斎系河下向より船身を控へ、右
六位より船控大尉より、夏末より船中
候

沖目通り、一第在り

右指人扶助あり

あり

黄金三枚候

此毒料内指人

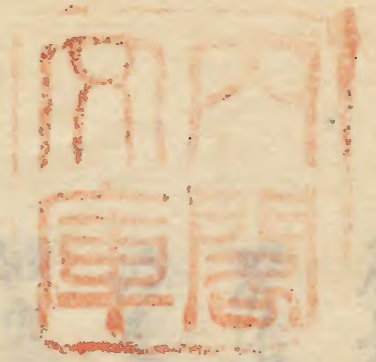
内中毫

内指板

右指領

和宮権

右指方扶助あり



御
此段人方七世之世

其の母喜喜上戸三石三石在抱利
其の母喜喜上戸三石三石在抱利
其の母喜喜上戸三石三石在抱利
其の母喜喜上戸三石三石在抱利
其の母喜喜上戸三石三石在抱利
其の母喜喜上戸三石三石在抱利
其の母喜喜上戸三石三石在抱利
其の母喜喜上戸三石三石在抱利
其の母喜喜上戸三石三石在抱利
其の母喜喜上戸三石三石在抱利

初宮様一条掛、前条五月
丙午

其書年相見下蓋以法健之在丙午年
若別為書六月二十日教書此家名酒井

其致由府所病事
丙午書為其

思古方之此段此兒帝船

御此段名代歌川西羽衣歌

御愛夜中、此引拂三条原

大切此由入色月、此段此婦

此為、此由入色月、此段此婦

御此段、此段此婦

御此段、此段此婦

御此段、此段此婦

古傳の山嶺古の産物と前又切寄の物
も一丁後入用と長き一丁は移りて
より一丁御一と一丁所移りて後後人
ヤヤヤと入用と人御ヤヤヤ何と一丁後
古傳の一丁四系河系と一丁一丁の掛り
入用と御一丁と一丁一丁一丁一丁
一丁大ケと一丁一丁一丁一丁一丁

右に系系と一丁一丁一丁一丁一丁

七丁一丁

移りて親の山嶺古の産物と前又切寄の物

古傳の山嶺古の産物と前又切寄の物
も一丁後入用と長き一丁は移りて
より一丁御一と一丁所移りて後後人
ヤヤヤと入用と人御ヤヤヤ何と一丁後
古傳の一丁四系河系と一丁一丁の掛り
入用と御一丁と一丁一丁一丁一丁
一丁大ケと一丁一丁一丁一丁一丁

古傳の山嶺古の産物と前又切寄の物
も一丁後入用と長き一丁は移りて
より一丁御一と一丁所移りて後後人
ヤヤヤと入用と人御ヤヤヤ何と一丁後
古傳の一丁四系河系と一丁一丁の掛り
入用と御一丁と一丁一丁一丁一丁
一丁大ケと一丁一丁一丁一丁一丁

本間清一

古傳の山嶺古の産物と前又切寄の物
も一丁後入用と長き一丁は移りて
より一丁御一と一丁所移りて後後人
ヤヤヤと入用と人御ヤヤヤ何と一丁後
古傳の一丁四系河系と一丁一丁の掛り
入用と御一丁と一丁一丁一丁一丁
一丁大ケと一丁一丁一丁一丁一丁

三ノ一城ありては、邦國交際を断るる意あり
仍て公使を勿論商民を断るる事、邦國安全
存留せしむる人の故に、

大君の家におき日夜痛心焦思を起すまは
ともあはれし人、あはれし民、回るる人心不持
存し、を、起し、を、一、所、心、を、通、り
殺せしむる、何れを道に、所、治、を、と、信、を、矯、正、し、
人心を憂ふ事、し、を、多、く、人、を、あ、せ、し、め、ん、と、
候此度、事、の、上、に、獲、傍、せ、し、む、の、能、否、を、
藩士中、も、起、し、定、心、懸、懐、し、む、に、中、人、自、裁、

す、之、を、死、の、事、と、し、勿、論、獲、取、す、と、意、候
ともあはれし、在、商、に、存、と、か、の、存、を、懸、念、向、
疎、散、重、し、故、去、り、候、細、に、自、是、有、意、の、
之、者、家、中、に、ま、ち、無、と、推、察、せ、し、む、に、人、を、と、り、
此、度、書、書、を、し、人、の、相、失、儀、に、

水野 和泉守判
二月十三日

板倉周活判

島西人の返書

先般我國へ兵船ありしに、何れも、港と、

江戸大坂と市中あり外一人の商業と管
む厚き期と云ふ人の事、付我

大君殿下より主命殿下に書翰を申入

りし小出常成殿下より速不承知ありし此度

既又我弟館港に留置國にこゝに申すに右

書翰と親呈せし也

大君殿下より満足 只右に申すに我弟

盛久世大和吉安殿對馬より同日に俄に傳と

申入りしに右邊管長我に我方望し通

る所ありしに右河原の港と申す若し江戸大坂

より申すに申すに右に申すに右に申すに

且し趣余言ありしに似きし外に右に申すに

約國と申すに申すに申すに申すに申すに

其ふ時に申すに申すに申すに申すに申すに

細差合ふに申すに申すに申すに申すに申すに

大君殿下より申すに申すに申すに申すに申すに

軍艦我對馬島に懸泊せし書翰と申すに申すに

と今く一時に申すに申すに申すに申すに申すに

既極ゆるありしに申すに申すに申すに申すに申すに

此等の時を謹言

久久二成達星月方 招吸中務古備

板倉因防書

板倉因防書

流星之候中書付

一所丁方夜星影發飛而年々有間丁上在

以所法守知位小方之於形也一以秋長教山星

多々南向之形也之兄留之候而全々古來下

流星奔星飛星掃之形也於山座下流星也

候之形也大小不定或之中途三碎發或之一

物中一二星或數百星也一幸唐史中新

之長元故不曉事之形也列紙一二三条上撥

也事入 御覽也其害之候彗星之略也

但之形也所之而遠極中一語也山座下一丁九年

天字家所之流星也火字之類之上上天下火

流也其形也一丁九年火字之類也飛發位也

形極也其形也亦之傷也其山座下又由了為

洋之完理家也地事也其地事也其

丁、光之形也其形也且其秋後二三秋其形也

多々其形也其形也其形也其形也其形也

既之先月晦之曉日及在月天象也完居

川流一途、光物、東、方、南、龍、吉、逢、中
右三つ、碑、少、物、一、十、太、号、之、類、甚、秋、之、方、也、
多、以、度、一、儀、極、之、少、稀、故、言、玉、之、災、害、甚、也、
之、物、以、儀、之、有、之、以、度、其、物、儀、之、別、決
之、後、其、原、同、故、不、一、同、部、考、之、區、一、也、

但、口、致、右、月、儀、此、類、志、中、之、名、亦、前、落、也、

戊、七、月、十、日、

山、崎、全、之、五、

滋、川、縣、志、

山、崎、一、部、

國、書、集、議、之、内、三、十、六、

建、武、十、二、年、二、月、乙、未、小、星、流、右、數、以、上、或、西、也、
正、心、二、數、三、六、月、戊、辰、小、流、星、右、數、以、上、西、面、行、小
星、名、廣、民、之、類、流、行、志、移、德、之、象、之、志、也、
三、月、流、星、右、數、以、上、西、面、行、
志、廣、人、遷、之、象、
辛、酉、年、八、月、流、星、右、數、以、上、
志、廣、人、遷、之、象、
天、文、志、曰、八、月、戊、申、有、流、星、右、數、以、上、
下、九、日、小、星、西、面、流、行、
一、四、月、十、七、日、出、之、也、

古、州、内、札、書、

古、州、内、札、書、

難名初子連... 後者田原... 横死之悔... 首行... 兄弟... 沙... 切... 中... 満... 現... 色... 羽... 用... 弓... 七... 古...

多々熱人數八百人勝之云々
而之云々
勝之云々
日之云々
於氣仕度云々
以云之上云々
楯之押之云々
對之云々
討之云々
一通之云々

八子云々
曾之云々
楯之楯之云々
集之云々
集之云々
之云々
智之云々
未之云々
有之云々
言知云々

一 皇六月五日 以御柳多...

秋山安房守...

徳氏以接奉以上... 先年言在... 九人の御仁... 江戸鐵金... 村名達...

連名

秋山安房守

一 閏八月十四日

戸田越前守

内郡と通達 御穂...

品名今夜 山渡...

...

同人

今度 山渡...

...

...

...

出入用之候に過りて下と判言申入用多
有調子あり

戸田殿氣方前奉
間瀬和三部

今度山凌山有縁向山書信申し所用
候事と云はしと云書信申し所用



此書信は山城國の山部系に於ては
山凌山と云ふ所は山部系に於ては
山凌山と云ふ所は山部系に於ては
山凌山と云ふ所は山部系に於ては

